

(書式 2)

学会参加報告書

提出日 2014年 9月 2日

学籍番号	13m0041	学系	コーチング
氏名	関根 慧		
学会等名 (正式名称)	2014 INCHEON ASIAN GAMES INTERNATIONAL SPORT SCIENCE CONGRESS		
開催日程	2014年8月20日 ~ 2014年8月22日		
開催場所 (国・都市名)	韓国・仁川		
発表演題名	Behavioral changes in junior- and high-school tennis players students through action research		
参加報告 ・項目別に具体的に記載する。	<p><学会の全体の印象> 国際学会への参加、さらに、発表者としての学会は初めての経験だったため、全てが新鮮に感じられた。アジア諸国の方々がたくさん集まっており、数多くの素晴らしい発表から多くのことを学ぶことができ、とても良い刺激となる学会だった。また、松浪理事長も発表されていた。</p> <p><自分の研究と関連した発表とその内容> 自分が出した Sport Pedagogy の領域では、オーラルが 12、ポスターが 11 と比較的少ない方だった。その中でもコーチに関するものは少なく、体育に関する発表が多かった。自分の研究のような実践研究はあまり見受けられなかったが、コーチや体育教師の学びや発達についての研究があった。中でも、コーチの成長のモデルについての研究では、エキスパートのステージでは think deliberately する能力を指し、エキスパートになるプロセスにおいてどのようにコーチを助けるかについて教育やビジネス、専門知識やエグゼクティブ/ライフコーチングに関する文献を用いて” Personal Learning Coaching” を提案していた。また、エキスパートコーチとビギナーコーチのコーチの振る舞いを比較している研究もあり、エキスパートコーチはビギナーコーチより Instruction が多く、黙って観察していることが少ないという結果が出ていた。</p> <p><自身の発表への質問・コメント> 環境をセッティングし、基本的心理欲求を向上させる部分についてコンテキストは異なるが似ている研究を行なっているという人に声を掛けられた。質問というよりも、似たことを行なっているということで興味を持って頂き、お互いの研究について話しをすることができた。</p>		

※ 補助金を受けた学生はこの学会参加報告書を提出すること。
提出期限は学会終了後 2 週間以内とする。